

東京オリ・パラ開幕まで1年を切り、大会準備はいよいよ実行段階に入った。残された準備期間、交通混雑緩和に対する関係先の理解・協力を促し、大会を成功に導きたい。

東京オリ・パラ開幕まで1年を切った。県内では、幕張メッセのリニューアル工事や、上総一ノ宮駅東口開設工事など、ハード整備が加速しているほか、観戦チケットの販売、運営リハーサルを行うテストイベントも本格化するなど、大会準備が進展している。

そうした中で、懸念材料の一つに浮上しているのが、大会中の交通混雑だ。

東京大会では、都内を中心に選手・関係者・観客など延べ1,000万人以上が訪れるとみられるが、とくにオリ・パラ7競技が開催される幕張メッセでは、競技開始・終了時間が幕張新都心地区の出退勤ピークとなる9～10時、17～18時半頃に集中しており、駅周辺の交通混雑や渋滞が懸念される。また、サーフィン競技会場の釣ヶ崎海岸も海水浴シーズンと重なるほか、多くの関係者や観客が利用する成田空港でも、混雑が見込まれる。

これに対して千葉県では、競技スケジュールの情報提供に加えて、混雑緩和のための取り組み(夏季休暇の取得、テレワーク・時差出勤の取り組み促進など)の紹介と実施を呼びかける予定にある。

この間、大会組織委員会と東京都では、大会中の交通混雑を緩和するため、7月に首都高等の交通規制テストを行うとともに、テレワーク、時差出勤などを含む一連の取り組みを「スムーズビズ」と名付けて、企業などに参加を呼びかけるなど、対応が一歩先を進んでいる。

多くの外国人の来訪が見込まれる開催期間中における競技会場、空港周辺の混雑は開催国のイメージダウンにつながりかねない。12年のロンドン大会では、市内の約8割の企業がテレワークや休暇取得などの対応を行い、混雑緩和に貢献した。当社が昨年8月、県内企業向けに実施したアンケート(図表3)では、開催期間中、「夏季休暇の取得促進」(8.1%)や、「柔軟な出退勤制度の活用」(4.7%)と回答した先は低水準にとどまっており、今後は、残された準備期間で官民一体となって交通混雑対策に取り組む必要がある。テレワークや時差出勤など多様な働き方の実践は、生産性の向上や人材を確保する上で企業にとってもメリットがある。オリ・パラ開催を機に働き方改革を促すことで、交通混雑を緩和し、大会を成功へ導きたい。(大塚)

【図表1】オリ・パラに向けた準備状況

		内容
千葉市	幕張メッセ	中央エントランスのリニューアル工事(20年2月完了予定)
	海浜幕張駅	身体障がい者用乗降場の増設、歩行者向け案内サインの多言語対応(19年度)
一宮町	上総一ノ宮駅	東口開設工事(20年6月下旬完成予定)
成田空港		東京2020オフィシャルパートナー契約を締結(19年2月22日)、各国選手団用の臨時専用ターミナルの整備(19年度末)
JR東日本		成田空港駅・成田空港第2ビル駅にホームドアを整備(19年度末予定)、競技終了時間に合わせた深夜増便や終電繰り下げを検討
京成電鉄		成田空港駅・空港第2ビル駅のリニューアル(19年度)、競技終了時間に合わせた深夜増便や終電繰り下げを検討

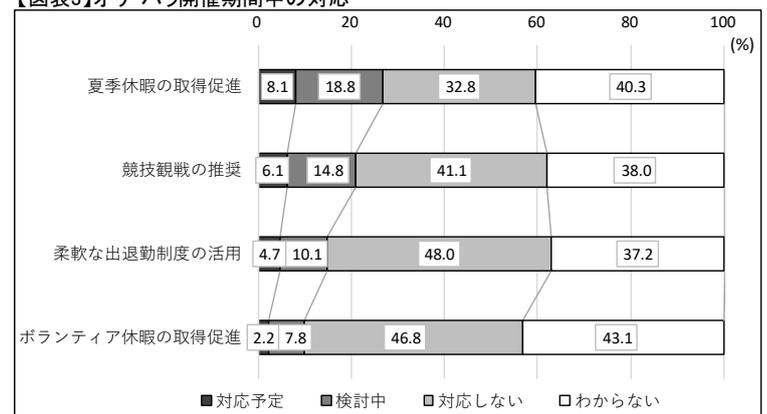
(出所)各種資料よりちばぎん総合研究所作成

【図表2】19年以降の主な動き

日程	内容
5月9日	オリンピック観戦チケット第1次抽選販売
6月1日	聖火リレールートの概要を発表
7月1日	聖火ランナー募集開始(都道府県募集分)
7月18～21日	READY STEADY TOKYOーサーフィン<テストイベント>
7月22日～9月6日	「テレワーク・デイズ2019」(コア日:7月24日)
7月24日	オリンピック1年前
7月24日、26日	交通規制テストを実施
8月8日	チケット第1次抽選の追加抽選販売(オリンピック)
8月25日	パラリンピック1年前
8月	パラリンピックチケット販売
9月	大会ボランティアの選考結果通知
9月27～28日	READY STEADY TOKYOーテコンドー<テストイベント>
9月28～29日	2019ジャパンパラゴールボール競技大会<テストイベント>
秋	チケット第2次抽選販売(オリンピック)
10月3～5日	READY STEADY TOKYOーレスリング<テストイベント>
11月末	新国立競技場完成
12月13～15日	高円宮杯フェンシングワールドカップ<テストイベント>
3月26日	オリンピック聖火リレースタート(千葉県は7月2～4日)
7月24日	オリンピック開会式
8月25日	パラリンピック開会式

(出所)各種資料よりちばぎん総合研究所作成

【図表3】オリ・パラ開催期間中の対応



(出所)千葉経済センター(18年8月実施)